

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4090700057		
法人名	社会福祉法人 薫風会		
事業所名	風の里 グループホーム		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区里中2丁目17番13号 (電話) 093-612-0120		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価確定日	平成22年3月29日

【情報提供票より】(平成22年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 5 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7.91人

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り 6階建ての 2階部分		
------	---------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,480 円		

(4) 利用者の概要 (2月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団翠会八幡厚生病院・医療法人東筑病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体となる社会福祉法人薫風会の開設時より関わる管理者は、その一員として法人理念「納得・共存・勇気」を共に創り上げ、その思いを大切に、職員や家族、関係者への共有・浸透を育んでいる。日々の暮らしは、入居者・職員が、お互いに自分らしく過ごせる場所として、自然体での暮らしやすい関係づくり・環境づくりが行われており、その背景には、理念を基にする充実した取り組みが実践されており、一例として、入居者の方々のふれあう時間を大切にするために、また職員が記録作成に追われないためにも、整理された効率的な記録様式があり、内容についても充実している。特別なことを行うのではなく、日常を大切に、本質的な部分での家庭的な環境づくりが行われており、自由な雰囲気にも含まれている事業所である。今後は地域に向けてより積極的なかわりを持てるよう働きかけながら、福祉拠点としての役割を担おうとしており、展開が楽しみとなる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題として同業者とのネットワークの構築があげられており、今年度は他事業所との相互訪問が実現し、また今後も地域包括支援センターも含めたネットワークの拡大に向けて取り組む予定としている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたっては職員全員に配布し、具体的な取り組みを記載し提出してもらっている。外部評価を現状の確認と振り返りの機会として活用している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議は、ホームのリビングで行われており、自然と入居者の参加がある。家族の参加も多く、積極的かつ率直な意見交換が行われていることが議事録からも確認できる。協力医療機関からも知見者として看護課長(認知症介護研修指導者)の出席を得ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議への家族の出席も多く、率直な意見交換の場となるよう取り組んでいる。事業所としての苦情受付担当者・解決責任者とともに、第三者委員による苦情受付窓口も設置しており、意見や要望があった場合には全職員に伝え、迅速な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近所の方々との日常的な挨拶や会話する機会を大切にしている。事業所の納涼祭は多くの地域住民の参加を得ており、またそれをきっかけとして子ども達が訪れるようになり、入居者とふれあいながら、時には叱られたりする光景もある。ホームに近接する同法人の保育園との相互交流があり、入居者の方々の楽しみとなっている。老人会行事や市民福祉センターでの行事にも参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	母体となる社会福祉法人薫風会の理念「納得」・「共存」・「勇気」を基として、「風の里グループホーム」として4項目の基本方針を定めている。その中に「透明性と公益性を常に意識する」と示されており、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた、また思いの込められた独自の理念が創られている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は文言として記憶するのではなく、意味を理解し、心で感じ、心で伝えるものである。職員からは「理念は飾りではない」との確かな言葉があり、日々の暮らしの様々な場面への対応において礎となっている。管理者は新任教育において理念に関する研修を重視しており、浸透・共有を図りながら、立ち返る場所(理念)と位置づけている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	近所の方々との日常的な挨拶や会話する機会を大切にしている。事業所の納涼祭は多くの地域住民の参加を得ており、またそれをきっかけとして子ども達が訪れるようになり、入居者とふれあいながら、時には叱られたりする光景もある。ホームに近接する同法人の保育園との相互交流があり、入居者の方々の楽しみとなっている。老人会行事や市民福祉センターでの行事にも参加している。		地域の中での小さな事でも気軽に手伝う事が出来るよう、その方策について検討している。法人としてのスケールメリットも活用しながら、地域における福祉拠点として、また、地域づくりの視点からも、今後の展開に期待します。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては職員全員に配布し、具体的な取り組みを記載し提出してもらっている。外部評価を現状の確認と振り返りの機会として活用している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期開催されている運営推進会議は、ホームのリビングで行われており、自然と入居者の方々の参加がある。家族の参加も多く、積極的かつ率直な意見交換が行われていることが議事録からも確認できる。協力医療機関からも知見者として看護課長(認知症介護研修指導者)の出席を得ている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

風の里 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	地域包括支援センターとの連携が主体となり、地域の困難事例への対応等について協議している。今後は、地域包括支援センターを含めた地域のネットワークづくりに向けて、協働していく意向である。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	現在、成年後見制度を活用している方もおり、担当の司法書士との連携により支援している。研修会への参加等を通じて、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する理解を深めており、入居者個々のケースを検討する際にも、制度活用の必要性を視野に入れながら話し合うようにしている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、各担当職員により、日々の暮らしぶりを綴った手紙を写真を添えて家族に送付している。また「風のひとりごと」と題する通信(完成度が高い)を2ヶ月に1回発行し、ある日の様子や多彩な内容にて情報発信が行われている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議への家族の出席も多く、率直な意見交換の場となるよう取り組んでいる。事業所としての苦情受付担当者・解決責任者とともに、第三者委員による苦情受付窓口も設置しており、意見や要望があった場合には全職員に伝え、迅速な対応に努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	余裕ある人員配置を行い、働きやすい環境づくりに努めている。その成果として離職は殆ど無く定着しており、安定した状況にある。やむを得ず、異動が発生した場合にも、全体でサポートできる体制にある。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、人柄や理念に向き合える人材を求めており、年齢や性別による制限は行っていない。理念を心に留めることは、職員自身の自己実現にも繋がるのではないかとと思われる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

風の里 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	新規採用時には、理念を深く掘り下げながら具体的に説明しており、認知症への理解を育みながら、人を大切にすること、相互の関係性を大切にすることについて話をしている。高齢者虐待防止や身体拘束についても、内部研修にて学ぶ機会を確保し、意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新規採用時には、理念・認知症について・プライバシーの確保等についての研修を行っており、資料からもその充実した内容が伝わる。また内外の研修の機会を確保するとともに、介護・福祉の経験豊かな職員による、実践の場での意見交換や助言が受けられる体制にある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	研修会等を通じて交流や意見交換の場を持ち、相互訪問を行う機会を得ている。今後は、地域包括支援センターとの連携により、ネットワーク作りへの働きかけを予定している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅や入院先への訪問を行ったり、ホームに見学に来てもらったりする中で、馴染みの関係づくりを行いながら、状況や課題の把握に努めている。また居室にも馴染みのある家具等を持ち込んでもらうことにより、安心してもらえるよう環境づくりに配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	法人の理念として「共存」と掲げ、またホームの基本方針として「お互いに支えながら過ごす場を作る」と示しており、入居者・職員がお互いを認め合いながら、共感できる関係を築けるよう、距離感の近い、自然体での関係性がある。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

風の里 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用しており、詳細・丁寧な記載がなされ、毎年更新している。これまでの人生史の把握に努め、また日々の様々な場面の中で、言葉や表情、行動等から本人本位に検討・分析し、職員間で共有していくことを積み重ねながら、一人ひとりの全体像に近づくための取り組みを行っている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族を交えたカンファレンスを実施し、意向を確認している。課題を本人の言葉で表現し、趣味や楽しみごととも運動させながら、多面的なアプローチが記されており、本人本位の個性あふれる介護計画が作成されている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	6ヶ月毎、及び状況の変化に応じてカンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っている。介護計画に基づいた「ケアプログラム」の立案、またそれに添った記録を見直しに活かしている。記録様式が整理・工夫され充実しており、合理的でありながら細部まで効果的に記載されており、特筆すべき点である。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族の食事や宿泊に柔軟に対応しており、24時間面会可能となっている。入院時には、関係が途絶えないように頻繁に面会に行き、また医療機関との連携により早期退院への支援を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向によるかかりつけ医への受診を支援している。運営推進会議には、協力医療機関からも出席を得ており、充実した医療との連携体制(往診・訪問看護)が構築されている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

風の里 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期の支援について、運営推進会議の議題として取り上げ、意見交換・情報の共有の機会を持っている。家族や多様な専門職との連携の中で、「重度化対応・終末期ケア対応指針」及び同意書を整備しており、ターミナルケアについてのマニュアルを作成中である。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	内部研修において、プライバシーの確保に関する研修を実施しており、記録等、個人情報についてもスタッフルームにて丁寧に分類され、管理・保管がなされている。個人の行動には必ず理由があるとの視点を持ち続け、理解し対応していくことが尊厳を守るにも繋がると考えている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの生活習慣やリズムの把握に努め、無理強いやならないよう柔軟に対応している。自己選択・自己決定の機会を大切に捉え、理念として掲げている「納得」した暮らしを送ることが出来るよう支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食材の買い物や調理準備・後片付けなどに参加してもらっている。対面式キッチンからは、リビングで寛ぐ入居者の方々へ食事作りの雰囲気や直接伝わり、和気藹々とした雰囲気の中で、職員もともに食事を楽しんでいる。食後もすぐには片付けずに、ゆっくりと会話を楽しむ時間を持っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的な入浴日の設定はあるが、希望や状況にあわせて柔軟に対応している。三方向から介助できる浴槽が備えられており、生活習慣や希望にあわせて、時間帯や入浴時間、湯温等を個別に把握し、職員間で共有しながら、気持ちよく入浴できるよう配慮している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

風の里 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	一人ひとりの生活歴や習慣等を把握し、得意分野で力が発揮できるよう、場面づくりへの支援が行われている。外部講師を招いて手芸活動を行っており、訪問当日も楽しそうに作品の披露・説明を行ってくれる方がおられた。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や気候に合わせて、その日の入居者の希望にあわせて、近くの公園に行ったり、コンビニエンスストアに買い物に出掛けたり、ベランダでの外気浴等を楽しんでいる。幼少期を過ごした故郷への家族旅行や、親戚のお店で家族とともに誕生祝いの食事を楽しむ方へのサポートも行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	一人ひとりを理解し、行動傾向の把握や所在確認等を行いながら、日中、鍵をかけないケアを実践している。入居時には家族へ向けて、高齢者の一般的なリスクについて説明し、安全面に十分に配慮しながら自由な暮らしの実現に向けての取り組みを伝えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	「風の里消防計画」を作成し、防災委員会及び自衛消防隊を組織している。地震や風水害、夜間等を想定した詳細なマニュアルが作成されており、それに基づいた避難訓練を行っている。ホームの上階は一般住宅となっており、災害時の協力・連携を働きかけている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人の管理栄養士との連携による献立が作成されており、入居者一人ひとりの水分・食事摂取量を観察・記録し、個々に合わせた摂取量の確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

風の里 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	対面式キッチンのカウンターや大きなテーブル、ソファ等、思い思いの場所(定位置)でくつろぐ姿があり、入居者・職員の距離感も近く、家庭的な雰囲気がある。車椅子のまま過ごしている方はなく、椅子やソファへの移乗がその都度丁寧に行われており印象に残った。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室にはミニキッチンが設備されている。入り口には氏名・住所が記された表札が掛けられており、部屋の主であることを認識してもらうための工夫がなされている。一人ひとりの状況に応じて、個別の配慮がなされており、居心地のよさや安全面での配慮が行われている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			